

センター長挨拶

江原 宏 アジア共創教育研究機構 教授(兼任)



この度、3代目のセンター長を拝命いたしました。農学の国際開発問題を実践的に解決する人造りを目指して18年間活動してきた農国センターは、昨年4月に山内前センター長の下で初めての改組を行いました。新たに、研究展開部門と実践地域開発部門を設置、両部門にそれぞれ2研究室を置き、また、国内外とのネットワーク形成と事業運営を担う国際連携室を設けています。そして本年は、新たな教員や研究員も迎え、いよいよ新体制が名実ともに整いました。この2部門・4研究室と国際連携室の機能を十二分に発揮し、環境に調和した農業生産と効果的資源利用を可能とする新資源・技術の開発、馴化、普及に関する研究と社会実装、並びにそれらを担う人材育成の取り組みを、より一層推進してまいります。引き続き、皆様からの温かいご理解とご支援を賜わりますよう、お願い申し上げます。

離任挨拶

山内 章 名古屋大学大学院生命農学研究科 教授



明治以来、欧米を目指して進めてきた科学研究をさらに発展させる中で、みずからの内発的な基礎科学としての研究課題を、途上国を含めた農業生産、消費、流通の現場において見出すことは農学にとって非常に重要です。

そのような現場には、解決すべき地球規模の課題や新たな学術的知見の創出が見込まれる研究シーズが多くあります。農国センターが、農学の学問分野を統合し、課題解決と研究成果の現場への適用を実現する「場」として機能し、社会実装を見据えたレベルの高い基礎研究をどんどん取り入れ、本来総合的学問である新たな農学の創造の場としてさらなる発展を続けることを期待したいと思います。

12年間の永きにわたり、ともに働いた教職員、学生、関係諸機関の皆さまに心よりお礼申し上げます。

着任挨拶

仲田 麻奈 熱帯生物資源研究室 助教



2019年4月1日より、熱帯生物資源研究室の助教に着任いたしました。これまでにイネ科作物の水ストレス適応性に関わる研究に取り組んできました。農国センターは、私がポストドク時代を過ごした場所であり、その他にもケニアでのSTREPSプロジェクトに参画したり、オープンセミナーに参加したりと交流を持ってきたからこそ、再び農国センターで研究に従事できることを光栄に思います。国際共同研究ならびにネットワーク構築と人材育成を通じた国際協力の発展に貢献できるよう、スタッフや学生の皆さんと協力して、勇往邁進してまいります。

略歴 1981年生まれ。2005年近畿大学農学部農学科卒業。2011年名古屋大学大学院生命農学研究科修了後、名古屋大学農学国際教育協力研究センター研究機関研究員、同センター日本学術振興会特別研究員RPDを経て、2015年より名古屋大学高等研究院YLC特任助教に採用。2019年4月より現職。

着任挨拶

高橋優希 研究員

2019年4月より農国センターの研究員として地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) 「ベトナム、カンボジア、タイにおけるキャッサバの侵入病害虫対策に基づく持続的生産システムの開発と普及」に携わっております。農国センターという、このような実践的な研究の場に身を置かせていただけることに感謝申し上げます。これまでは、カンボジア稲作の経済変容に関する実証的研究に取り組んで参りました。今後は、研究経験と農国センターで学ぶ多くのことを活かし、プロジェクト活動の一助となれるよう、日々、努めていく所存です。



略歴 2009年に東京農業大学国際食料情報学部を卒業。2012年にカンボジア王立農業大学大学院留学を経て2014年に東京農業大学大学院農学研究科博士前期課程を修了。2019年3月に同大学院農学研究科にて博士号(国際バイオビジネス学)を取得後、2019年より現職。

田代 亨 研究員

2019年4月1日付けで客員研究員を拝命いたしました田代 亨です。今回このような機会を頂けることを嬉しく、光栄に思っております。私は、これまで、食用作物のイネ・コムギ、油糧作物のゴマなどを対象に、作物生産学的視点から収量・品質の高位・安定化を目指した研究を進めてきました。本センターでは、開発途上国の農業研究者・技術者の人材育成を視野に「東南アジアイネ品種の玄米品質に関する研究」を遂行いたします。スタッフの皆さんと協力しながら、本センターの更なる発展・活性化に向けて、微力ながら全力を尽くす所存であります。



略歴 1946年神奈川県生まれ。1969年東京教育大学農学部卒業。1974年名古屋大学大学院農学研究科博士課程単位取得退学。1976年名古屋大学助手、1992年同助教授。1996年三重大学生物資源学部教授。2004年千葉大学園芸学部教授。2012年千葉大学グランドフェロー。

客員教授紹介

ニオネス・ジョナサン・マニト フィリピン稲研究所 遺伝資源部門長 外国人客員教授(生物遺伝情報研究室) (任期:2019年2月1日~2019年3月30日)

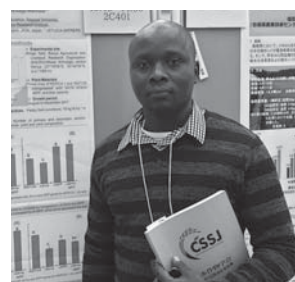
在任中は皆様との共同研究に励むと共に、ICREAオープンセミナーにて、「気候変動への対応を目指したイネの品種改良 ~フィリピンにおける遺伝資源の潜在能力を解放つ~」と題する講演を行う機会に恵まれ、大変有意義な時間を過ごすことができました。現在、フィリピン稲研究所には1万6千を超える多様なイネのアクセッションラインが保存されています。今後これら効率的な利用を通じた皆様との国際共同研究の推進に向け、中心人物として貢献できるよう努力する所存です。引き続きのご支援をよろしく申し上げます。



略歴 1976年生まれ。1996年 南ミンダナオ大学農学部卒業、2004年 フィリピン大学農学部農学専攻修士課程を修了、2012年 名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程修了(博士(農学)取得)。2003年 フィリピン稲研究所研究専門員、2005年 同シニア研究専門員、2013年 同研究専門主任、2016年遺伝資源部門長。

ケニアから共同研究者を招聘

2018年度から実施しているJSPS研究拠点形成事業(B.アジア・アフリカ学術基盤形成型)「アフリカ稲作研究イノベーションのための研究拠点と国際協働ネットワークの構築」における研究交流活動に参加するため、2019年3月22~30日にケニア農畜産業研究機構ムエア支所のダニエル・メンゲ研究員が来日しました。名古屋大学で博士(農学)を取得しているメンゲ研究員は、本センターでイネの品種改良と栽培技術改良に関する研究打ち合わせに参加した後、東京農工大学において水田から得たリモートセンシングデータの解析方法について研修を受けました。さらに、筑波大学で開催された日本作物学会第247回講演会に参加し、共同研究の成果を発表しました。今後もケニアとの共同研究のキーパーソンとして活躍することが期待されます。



日本作物学会第247回講演会でポスター発表を行ったメンゲ研究員

(榎原大悟)